

2019年度 第3回 TOP BALL 杯多摩川親善野球大会 新人・教育大会約款

(調布市、狛江市、多摩市、三鷹市、稲城市)

本大会は、2019年度公式野球規則、2019年度競技者必携少年野球に関する事項および次に定める特別規則を適用する。

1. 試合イニング

試合は7回戦とするが、試合開始後1時間30分を経過したらそのイニングを最終回として、均等回の得点で勝敗を決める。教育は5回戦で1時間10分とする。教育に限り、10点目が入った時点で攻守を交代する。

2. コールドゲーム

新人の部は4回終了時以降10点以上の得点差、5回終了時以降7点以上の得点差がついた場合は、コールドゲームとする。教育の部は3回終了時以降10点以上の得点差、4回終了時以降7点以上の得点差。

3. 特別継続試合

試合開始より1時間30分以内で、4回以前に中止になった場合(ノーゲーム)および4回を過ぎて同点で試合が中止になった場合(正式試合でタイゲーム)は、再試合とせず翌日または後日継続試合として行う。また4回表が終了した時点で後攻チームの得点が多い場合は成立試合となり、後攻チームの勝ちとする。

教育は1時間10分、3回とする。

4. 特別延長ルール(タイブレイク方式)

7回が完了もしくは試合開始から1時間30分が経過して同点の場合は、特別延長戦を行う。

前イニングの最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とし、無死1・2塁の状態で行う。特別延長戦は、最大2イニング行う。それでも勝敗が決定しないときは抽選で勝敗を決定する。

教育は5回、1時間10分とする。

5. 投球制限

1日70球以内とする。但し70球に達した時点の打者までは投球する事が出来る。教育は60球とする。

ボークにもかかわらず投球したものは、投球数とする。

投手の再登板は認める。但しタイブレイク時は再登板禁止とする。

6. ベンチ入り

ベンチに入場出来る大人は、代表者1名、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名、給水係2名の最大7名とする。また代表、スコアラー、給水係は、ユニフォームを着用せず(コーチと区別出来るものを着用)、チーム帽子を着用する。

※監督・コーチの背番号は30, 29, 28を基本とするが、それ以外の背番号のものがベンチに入る場合は事前に大会主催者に申し出るものとする

7. 用具など

試合中打者、走者、次打者、ベースコーチは、公認(JSBB)の両耳付のヘルメット、捕手は公認マスク、プロテクター、レガース、ヘルメット、ファールカップを着用しなければならない。

8. その他

① 各チームは試合開始の60分前までに集合し、30分前までに各試合会場の本部にメンバー表(3枚)を提出する。調布多摩川児童公園グラウンドの場合は、2面本部に提出すること。

② ベンチおよびスタンドでは笛や太鼓などの鳴物の使用を禁止し、相手チームへのヤジや挑発的な行為はしない。同類の行為を続けた場合は、チーム責任として監督を退場とする。

③ ベンチは、抽選会で決定した組合せ番号の若いチームを一塁側とする。攻守は審判立ち合いのもと主将のジャンケンで決定する。

④ 試合前のシートノックは、実施しないものとする。

- ⑤ 投手の準備投球は、初回および救援投手は7球、次回以降は3球とする。
- ⑥ 本大会に参加する選手は、スポーツ安全保険に加入済みであること。
- ⑦ 大会約款に定めのない事項で協議が必要な場合は、大会本部と参加連盟で協議し、これを解決する。
- ⑧ 試合終了時のグラウンド整備は勝利した当該チームが行う。
- ⑨ 試合前の練習場についてはありません。但し、多摩川グラウンドの各面において当大会の試合が無い場合において、最短で試合を実施するチームを優先とし試合が行われていないグラウンドにおいて練習可とします。
- ⑩ 新人の部は、試合開始後60分経過後もしくは5回終了後、次の試合の先発のバッテリーのみ試合予定ベンチ側の外野にて投球練習可能とします。投球練習中は、バッテリーの安全を確保するためにコーチを1名付けるものとします。教育は、試合開始後40分経過後もしくは3回終了後です。
- ⑪ ボークについて
適用します。教育は1投手に対して1回目は注意、2回目からはボークを適用するものとする。
- ⑫ ヒット・バイ・ピッチについて
打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたとき、球審は攻撃側の監督と協議して臨時代走（直前の打順の選手でバッテリー以外）の処置をおこなうことができる。
- ⑬ タイム回数について
- ①監督のタイム
監督が1試合に投手のところに行ける回数は3回以内とする。
なお、タイブレーク方式になった場合は、2イニングに1回行くことができる。
- ②守備側のタイム
捕手または内野手が1試合に投手に行ける回数は、3回以内とする。
なお、タイブレーク方式になった場合は、2イニングに1回行くことができる。
野手(捕手含む)が投手のところへ行った場合に、そこへ監督が行けば双方1回として数える。
逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は監督のみとして回数に含まない。
- ③攻撃側のタイム
1試合に3回以内とする。
なお、タイブレーク方式になった場合は、2イニングに1回行くことができる。
守備側がタイムしたときに、攻撃側の監督が打者またはランナーを呼んだとき、または監督がベンチを出たとき、球審は監督に対して攻撃側のタイムとして数える旨を伝える。
- ⑭ コーチャーは選手が務める。教育については、一塁および三塁コーチャーにベンチ入りの監督もしくはコーチが入ることもできる。
- ⑮ 給水タイムについて
試合が攻守の交代がないまま延々と進行している場合や、天候の状況等により、審判員は選手の健康に配慮して、適時給水タイムを取ることができる。給水タイム中は時計（タイマー）を停めるものとする。
- ⑯ 審判へのお茶出しについて
今大会は各チームのお茶出しは行いません。審判の方は持参願います。

以上